

肺がん検診の検査について

（１）胸部低線量 CT について

体内の断面像を得ることができるコンピュータ断層装置（CT）を使って検診を行います。検査時間は約 5～10 分程度です。胸部 CT は、胸部レントゲンと比較して、より肺がん検出率が高いと報告されていますが、胸部単純 X 線と比較して放射線被ばくが増えるという難点があります。又、肺がん以外の疾患が発見されることもあります。当院では、被ばくの問題を解決すべく、肺がん CT 検診認定機構の推奨する低線量 CT を採用しています。

低線量 CT による肺がん検診は、通常の胸部 CT の2割程度の低い線量で検査をします。低線量とはいえ、最先端の CT 装置と被ばく低減技術を用い、がんの診断が可能な画質が担保されるよう、医師と診療放射線技師とで検討を行い、線量を決定し、診断は放射線科、呼吸器内科医師 2 名以上による二重読影を実施しています。

（２）喀痰細胞診

太い気管支を中心にした肺門部にできるがんには有効な検査です。ただし、肺のすみの末梢部におけるがんの細胞は採取できないため、検査結果に異常がなくても肺がんではないとは言い切れないことや、1 回の検査ではがん細胞を見逃す可能性もあるため、最低 3 回分の痰で検査を実施します。

* その他注意事項

- ・低線量 CT といっても、放射線被ばくが全く無いわけではありませんが、放射線リスクとして知られる発がんや、脱毛、皮膚障害等の健康被害が出る心配のある線量ではありません。
 - ・胸部低線量 CT で必ずがんが見つかるわけではありません。ごく早期の小さながんや、肺門部位や太い気管支に生じるがんは胸部低線量 CT でも発見が困難です。
 - ・胸部低線量 CT で典型的なものでなければ、肺がんとは診断はできません。異常所見があっても、肺がんではない良性疾患である場合、あるいは良悪性の判断が困難な場合、経過を見ないと判断できない場合等があります。
 - ・肺がん検診で、結果が判明せず、2 次検査が必要な場合の最終結果が判明するまでの間、また肺がん検診の結果が出るまでの間、精神的な負担が生じる可能性があります。
- * 妊娠中、あるいは妊娠が疑われる方、ICD（植え込み型除細動器）装着の方、検査一週間以内のバリウム検査を受けた方は、肺がん検診の CT をとることができません。該当があれば、健診センターにご連絡ください。